

平成 28 年度事前評価結果

第 48 回研究評価委員会において、平成 29 年度NEDO新規案件の事前評価を実施しました。結果は以下の通りです。

当該評価結果は、今後基本計画等に反映してまいります。

平成 28 年 9 月

案件名	ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト
推進部署	ロボット・AI 部
総合コメント	新市場分野を開拓する期待が極めて大きい領域であり、当該分野の優位技術を確立していく上で、推進すべきプロジェクトである。運営にあたっては、将来の社会システムを想定し、運行管理システム、安全性・信頼性、国際標準化、法・制度的課題等を考慮し、人選・権限を含んだマネジメントに係る検討も同時に進めること。また、ドローンと陸上・水中ロボットは開発フェーズが異なるので、標準化を連携して進めつつ、開発計画・目標はそれぞれで整理し、区別すること。

案件名	バイオジェット燃料生産技術開発事業
推進部署	新エネルギー部
総合コメント	バイオジェット燃料の実用化は、省エネと資源安全保障の観点から意義が高く、ハイリスクであることから国のプロジェクトで進めるのは妥当である。エネルギーと物質の収支を分析し、温室効果ガス以外の環境影響評価も考慮した上で、トータルシステムの概念設計を行い、サプライチェーンとコストを精査すべきである。また、過去のバイオ燃料関連プロジェクトで抽出された課題を十分吟味し、本件の開発項目・目標と計画を設定すること。

案件名	高効率な資源循環システムを構築するためのリサイクル技術の研究開発事業
推進部署	環境部
総合コメント	資源・環境エネルギー戦略の上で、国として取り組む必要があり、リサイクルにおける日本の先導性を国際的に波及させる意義も大きい。動脈産業と静脈産業をどう繋げ、どういう位置付けで情報連携するかシステムの設計検討を早急に開始すること。また、技術開発のみならず、法規上の課題を含む社会システムの構築が重要である。アウトカムは、資源効率の定量的指標を各段階で設定し、前倒して推進するべきである。

第 49 回研究評価委員会において事前評価 1 件を追加実施しました。結果は以下の通りです。

平成 29 年 1 月

案件名	環境調和型製鉄プロセス技術開発(STEP2)/フェロコークス活用製鉄プロセス
推進部署	環境部、省エネルギー部
総合コメント	実証段階に到達したフェロコークス活用製鉄技術を早期に実用化し、高難度だが効果の高い水素還元活用製鉄技術及び CO2 分離・回収技術と一体化した開発を進めることで、我が国の基幹産業である鉄鋼業が産業技術力を高め、省エネ及び CO2 排出削減の社会的要請に応えていくという意義は大きい。費用対効果と経済性を精査すると共に、実機での効果検証に向けた実証高炉のスケールアップ指針を明確にしておくこと。また、将来の海外、特に開発途上国への技術展開を視野に入れ、標準化及び知財戦略を具体化しておくべきである。